令和 6 年 3 月 30 日 83(5-4)

# 建設防災 ボランティアニュース 第83号

♪・ 初動対応訓練

・ 建設局長による感謝の会

• 施設見学会

次 ・ 砂防講習会

• 徒歩点検

# 4年ぶり!! 初動対応訓練

令和5年度建設局初動対応訓練が、3月4日 (月)に行われました。

本訓練は、建設局職員の災害発生時における 対応能力向上を図るため、本庁勤務職員はもとよ り、出先事務所勤務職員、水門管理住宅・水防住 宅入居職員を対象とした大規模な訓練です。大 規模な地震災害等が発生したとき、被災情報の 迅速な収集や応急復旧などの支援活動を行うとさ れた建設防災ボランティア協会員も、参集事務所 に設置される各災害対策本部の編成に組み込ま れました。

初動対応訓練については、コロナ禍のため、令和2年から3年間は未実施でしたが、今年度は満を持して2月6日に実施することが決定されました。奇しくも令和6年1月1日に能登半島地震が発生し、まさに直下型地震が東京を襲う現実味の帯びた状況下で行うこととなりました。準備を整え万全な体制で臨もうとした矢先に、当日は警報級の大雪になる可能性が高いとされたため、3月4日への日程変更がありました。

事務所	参加者	事務所	参加者
一建班	6 名	西建班	3名
二建班	3名	南東建班	7名
三建班	3名	南西建班	6 名
四建班	7名	北南建班	6 名
五建班	7名	北北建班	6 名
六建班	6 名	東部公園班	1名
		西部公園班	2 名
合 計		63 名	

今回の訓練の特徴として、インターネット環境がある状況での災害対応能力の向上及び FAX レスの取組の推進を目的に、現場からの報告においてはメールによる情報連絡、MCR の使用やウェアラブルカメラの活用を位置づけし、試行的に電子データによる情報連絡訓練を実施することが挙げられます。

協会員は、事務所災害対策本部に参集し、作 戦班と応急対策班に割り振られた後、それぞれの 持ち場で想定された作業を行うことによって、職 員との連携を確認するとともに、有事に備えた実 践的な訓練を実施しました。参加協会員は 63 名 でした。

担当理事 川合康文



# それぞれの持ち場で!! 各班の活動

## 一建班



一建班は、令和6年3月4日(月)実施の建設 局初動対応訓練・一建訓練に参加しました。当初 実施予定の2月6日(火)は雪害対応のため延期となりましたが、4日は快晴で暖かく、訓練実施に絶好の日和となりました。当日は、多澤リーダー、佐野氏、田所氏、藤野氏、片岡氏、石坂の6名が参加しました。参加者は、現場点検班の3つの係に2名ずつ配属され、一建職員と現場に徒歩で赴き、想定された道路や河川の被災状況を防災無線や道路通報システム(MCR)、ウェアラブルカメラを使用して報告しました。

道路通報システムは、レスキューナビゲーションに代わり東大と共同開発したシステムで地図上に写真・説明を張り付けて送信するシステムです。撮影した写真は、人物に自動的にモザイクがかかる優れもので、通常は一般都民からの道路陥没等の情報提供に使用されているそうです。またウェアラブルカメラは、今回1台が一建に配置されたもので、音声操作で現場の映像をリアルタイムで一建本部と共有できる機器でした。これら最新機器等が、被災状況の迅速で正確な把握につながれば、早期の応急復旧につながると感じました。

訓練を終了するにあたり、村上一建所長から講評がありました。職員への労いとともに「実際に被害が起こらないことが理想だが、万一に備え継続的に訓練を実施することが大切である。本日の訓練を踏まえ、課題を抽出してさらに実効性を高めていきたい」とのお話がありました。

村上所長にお伺いしたところ、建設局所長会で 初動対応訓練の実効性が議論されたそうです。 本日の訓練では、一建独自のアンケートを作成し て、支障になった点や改善すべき点などを参加 者に記載してもらい、より実効性の高い訓練内容 に改善していきたいとのお話でした。

訓練終了後、一建班参加者は本日の訓練で課題であると感じたこと、今まで培った経験を踏まえた改善点等をアンケートに記載しました。これが、今後の初動対応訓練の向上に少しでも生かされれば幸いであると考えます。

今後とも、一建とのコミュニケーションを円滑にして事業推進等に協力していく所存です。

一建班 石坂弘司

#### 二建班



#### 三建班



#### 四建班

四建班の参加者は6名であった。

作戦班道路担当には東了一、作戦班河川担当には平野敬冶、加藤昌宏、応急対策班現場点検担当には伊藤政行、小林一浩、荒井一朗の各メンバーが、現役の職員とともに活動して、震災を想定した訓練をおこなった。



訓練後は所長室で意見交換を行い、その場で、防災ボランティアのもつ経験に基づいた、いくつ

かの発言があった。災害時には、Wi-Fi が使えなくなり、MCR は機能しないのではないかという意見や、初期参集段階での指揮命令の実証が重要という感想があった。

4年ぶりの訓練で、各段階でどのように指示を 出すのかあいまいな点、行動の方針決定に時間 がかかっている等の問題点もみられた。

しかし、参加者各自が実際の緊急時に対応すべき点を確認した訓練になったのではないかと思われた。初動時においては、事務所管内に在住する職員、防災ボランティアの活用が求められるため、今回の訓練のような、お互いの顔が見える機会が重要と考えている。

四建班 荒井一郎

6名それぞれから感想と改善などについての意見を十分に述べさせていただき閉会となりました。大変有意義な訓練だったと思います。



六建班 長島修一

## 五建班



#### 六建班

一回の延期により、若干メンバーが入れ替わり、 当日はボランティア6名が参加し、4年ぶりの訓練 で現役職員も戸惑いを見せる中、昔取った杵柄 で精いっぱいの活動をしてきました。六建のご配 慮で年齢や元気度に応じて班割を考えていただ き比較的若手と健脚を現場調査班に、それ以外 を内勤班と適材適所でした。

訓練中は、アナログと IT 化の過渡期でそれぞれの長所、短所を感じながらの活動でしたが、本部長(所長)以下職員と我々ボランティアの考え方や反省点等の感じ方は、ほぼ一致した感じです。

訓練終了後、所長室で小一時間の懇談をして、

#### 南東建班



(南東建班からの報告は、次号に掲載します)

#### 南西建班

令和 5 年度建設局初動対応訓練は令和 6 年 (2024)3月4日に実施された。南西建の防災ボランティアも 6 名が参加して、新築なった南多摩西部建設事務所7階会議室で訓練に参加した。

平成7年の阪神淡路大震災を機に設立された建設ボランティア協会は、平成12年度から令和2年(2020)1月まで初動対応訓練に参加してきたが、令和2年4月に出された新型コロナの緊急事態宣言をうけて、翌年はボランティアの支援が見送られ、その後訓練は中止となっていた。令和5年(2023)5月に新型コロナが5類感染症に位置づけられ、徐々に諸活動がコロナ前に戻ってきていた。

本年は元旦に能登半島地震が発生し、道路・港湾などのインフラ、水道・電気などのライフライン、産業基盤が破壊され、住民は日常生活に困難を極めていることが連日報じられている。そうした中、建設局の初動対応訓練が4年ぶりに行われた。当初は2月6日(火曜日)の予定だったが、大雪で延期となり、3月4日(月曜日)に実施された。

南西建では新しい事務室に移転して最初の訓練である。ボランティアの参加は、吉田が参集訓練から参加し作戦班・支援班、10時15分からの交代班として作戦班と支援班に大八木、堀内、中込、金子、髙橋、計6名が訓練に参加した。



本年の訓練実施計画で、今年度の訓練のポイントは「インターネット環境がある状況での災害対応能力の向上及びFAXレスの取組の推進を目的に、試行的に電子データによる情報連絡訓練を実施する」となっていて、局本部と事務所本部間においてはTAIMS端末を用いてファイルサーバー及びメールを用いて情報連絡を行うとなっている。

今回の訓練ではこれまでと同様に、参集訓練、本部開設、参集状況などの情報訓練、被災箇所の点検出動、被害状況報告などの訓練が行われた。また現場点検ではMCRを使用したが、南西建ではウェアラブルカメラは未導入で使用しなかった。

南西建の防災ボランティアは総務担当では各作 戦班からの情報集約、局本部・本部長への報告 の補助、道路・河川作戦班は被災状況の把握、 現場点検班から報告に基づき災害状報告書の作 成、支援班では参集職員名簿の作成、飲料水の 配布などを行った。

初動対応訓練は中止期間があったので、今年は職員も新しい参加者もあり、また南西建は新しい庁舎での初めて訓練のため、事前に事務所への入庁方法、本部開設、通信機器・自転車の所在などの説明があり、訓練はスムーズに終了することができた。

訓練に参加しての感想としては、訓練のポイントに電子データによる情報連絡訓練とあるように、ノートパソコンでの情報のやりとりが行われていて、被災状況の館内図の表示や被害想定箇所の文書はあるものの、その他はパソコンを見ないと分からないので、会議室内に居ても被災対応・復旧状況などは本部長(所長)のマイクでの報告以外は知ることが出来なかった。迅速でペーパーレスでの情報連絡は重要であるが、情報の共有化という点では物足りなさを感じた訓練参加だった。

南西建班 吉田安輝

#### 北北建班



#### 北南建班

5年ぶりとなる建設局初動対応訓練が、3月4日 (月)快晴の下、開催されました。今年度は、インターネット環境がある状況での災害対応能力向上及び情報連絡訓練を実施するものでした。1月1日に発生した能登半島地震の復旧・復興に一丸となって取り組んでいる今、時宜にかなった訓練となりました。例年行う会場が拡張作業のため、2階の会議室となり手狭感は否めない感はありましたが、作戦班、支援班、応急対策班がコンパクト にまとまる状況で、作戦班に柿堺さんと内山さん、 応急対策班の道路班に池田さんと川合さん及び 新川さんと私の6人が参加しました。



10 時過ぎから新旧職員の引継ぎ後、それぞれの班での活動となりました。局本部、各事務所、現場間のやり取りはデジタル(サーバーやメール)を用いる半面、例えば、現場班への指示の際にはアナログ(手書きによる指示書作成)に時間を要したり、MCR の操作についても、用意された取扱説明書を見ながらの対応など、デジ・アナ混在のちょっと笑える場面もありました。このことは、年に数回でも機器を扱う習熟の場を設けるなどの対応により、誰もが操作できる状況となり、いつ発生するか分からない本番までに万全を期していただきたいと思います。

私は新川さんと、府中街道(市民球場交差点付近)の倒木撤去完了確認という指示を受け、職員2人と徒歩による点検に向かい現地で確認し、現場からMCRによる報告と受領の確認後、帰所しました。最後に、帰省中に深度5強の地震を体感した出戸所長の講評をもって訓練は無事終了しました。

その後、コロナ感染の影響から大勢で会う機会がなかったことから、管理職全員と参加者による意見交換の場を持ちました。訓練の総括では、警察・消防・協力会社等との連携、デジタルの必要性とフェースツーフェースの重要性などの意見、今後の取組として、定期的な活動に加え、現場見学会の開催や「北南塾」の再開などの意見が出るなど、今後の活発な活動を予想させる場となりました。

訓練後の忙しい中、対応いただいた所長はじめ 管理職の皆さんに感謝申し上げます。参加された 職員、協力会社、会員の皆様、お疲れ様でした。

北南建班 舛原邦明

#### 東部公園班



一時避難所となる予定の東部公園事務所前広場

#### 西部公園班

今年度の初動対応訓練は、降雪のため当初予定されていた2月6日から3月4日に変更して実施されました。西部公園班は、リーダーの小山雅文とサブの丹野修の2名が参加です。長老の小森和雄さんも参加の予定でしたが、直前に新型コロナの濃厚接触者になってしまったため、残念ながら不参加となりました。

訓練内容は、安否確認、参集をはじめとした初動対応の各種演練です。我々ボランティアは、点検出動訓練の第2部要員として被害想定メモに従い、井の頭恩賜公園内の第二次パトロールに出発しました。公園の被害報告の優先度の基準によると、来園者への被害や猛獣の脱出などとともに、ヘリポートの状況や園地被害の程度について優先的に報告することになっています。東京都全体の救出拠点となるために健全な園地の確保が求められているのです。

1班は御殿山園地で倒木を、2班は中の島の護 岸崩落と野外ステージ付近の倒木をそれぞれ点 検しました(もちろん想定です)。

事務所に戻って報告を済ませてから、現役の職員に職場の現況などを聞きました。OBにとっては

これが何よりの楽しみです。それによると、西部公園では庁舎の建て替えを進めているところですが、残念ながら入札が不調になって先送りになっているようです。能登の震災や大阪万博の影響があるのでしょうか。何とか価格が折り合えるようになればと願っています。

最後に本部室で細川所長をはじめとした本部メンバーとともに映像による中島都技監の講評をいただき、訓練は無事終了しました。



帰途はもちろん丹野さんと反省会です。二人とももう後期高齢者なのに、昼前から夕方までやりました。我々の世代は昭和の車と同じで、ガソリンを入れないと走れません。でも今回は少し入れすぎたようです。



西部公園班 小山雅文

## 待ちに待っていた!!

# ・・建設局長による感謝の会・・

11月に中島東京都技監より、4年ぶりとなる「感謝の会」を開催する旨のご案内をいただき、ようや くコロナ禍から解放されたことを実感しました。

令和6年1月17日(水)午後6時から、新宿三井 ビル3Fの「Shinjuku KIZENBOU」で、協会員 57名と、建設局幹部、各部所長、事務方の皆様 計39名の、合計96名が参加して楽しい時間を過 ごすことができました。

会場では久しぶりの再会に挨拶や積もる話に 開会前から話の輪が広がる中、元木総務課長の 司会で始まりました。



冒頭、中島都技監から衝撃的だった正月の能登半島地震に触れられて、東京の直下型地震対策にしっかりと対応していくが、発生時にはボランティア協会員の知見と

経験を活かしてもらいたいとのご挨拶をいただき ました。

山口会長は、コロナ禍の中 細々と続いていた活動がようや く再開され、この会も待ちに待 っていたため多くの会員が参 加している。災害対応は、各事



務所をサポートできるようしっかり取り組んでいき たい、と挨拶されました



続いて古谷次長の「ここにお集まりの皆様のご協力を得て東日本大震災の支援をしたことを思い出します」とのご挨拶に続く乾杯のご発声で懇談に入りました。恒例と

なっている差し入れの日本酒の紹介とともに、酒が進むにつれ談笑の輪が広がり会場は大いに盛り上がりました。



久しぶりの懇親に盛り上がった会も時間となり、 花井道路監による「今年の総合防災訓練ではボ



ランティア協会員が一番ピリッとしていた・・・」との年寄を労わるお言葉とともに、盛大な3本締めでお開きとなりました。

会の開催にご尽力いただい

た建設局の皆様と、参加された会員に心より感謝 申し上げます。誠にありがとうございました。

担当理事 林幹生

#### 前回参加は都職員、今回は協会員

「建設局長による感謝の会」が四年ぶりに開催されました。協会員にとっては、建設局職員の皆さんと語らうことが出来る大切な場です。懐かしさで会話も弾み、二時間という時間は瞬く間に過ぎました。私自身も大変有意義な良い時間を過ごさせて頂きました。有難うございました。



前回の開催では職員としての出席でした。今回 は都を退職し協会員の立場になって初めての参 加です。コロナ禍で十分な活動が出来なかった 分、これから道路施設点検等のボランティア活動 に積極的に取組んで行きたいとの思いで参加い たしました。ただ、元日に発生した「能登半島地震」 がそうした安易な意識を変えさせました。

今回の「能登半島地震」は、太平洋プレートが 日本列島で沈み込んで行く過程で、地中深くに 移動した水蒸気が日本海側で上昇した結果、発 生に至ったものとの専門家の見解がありました。 改めて日本が地震国で、我々は常にそのリスクの 上で暮らしており、首都圏でも震度7クラスの地震 はいつ発生してもおかしくないことを再確認させら れました。協会員としての平時の活動だけでなく、 非常時に際し、行政と連携・協働して自身は如何 に活動するか、明確な道筋を持つことが求められ ます。このことは、今回参加した協会員の皆様も 同様の認識であると思います。

2011 年の「東日本大震災」発生時直後の自身の行動を振り返ってみました。翌日に完成式典を控えた給水所の入り口外付近にいましたが、地面がゆっくりと大きく横方向に揺れ、立っていることが難しく地面にしゃがみ込みました。遠方の高層

建物もまた大きく揺れている状況、揺れが収まった後には、工事が完了したばかりの給水所壁面の破損等を目の当たりにしました。一緒にいた職員も無事でしたし家族は大丈夫だろうと思い、直ぐに事務所に引き返しました。その後は、所管する水道施設の被害状況の把握等のため、泊まり込みで作業に取り組んだ記憶がよみがえります。

都職員の皆様方には、「首都直下地震」の発生 を見据え、東京の防災・減災の街づくり、発生後 の復旧・復興に取り組む覚悟を一層強く持たれて いることと思います。

防災ボランティアとして、非常時には、自身と家族の安全を確保の上、都の支援活動に従事したいと思っています。ただ現在、鉄道会社に勤務しており、都内で震度 6 弱以上(会社では震度値について確定していません)の地震が発生した場合、先ずは会社本部組織の指揮のもと、事業継続を第一優先に被害状況に応じて、鉄道施設利用者の安全確認やその支援活動等に従事しなければなりません。その後、協会"五建班"員として、管内の道路や橋梁の被害状況報告や五建災害対策本部の協力活動に従事できればと思っております。

「東京都建設防災ボランティア協会」会員として、 退職後も引き続き、都政と連携・協働して地域の ために取り組めることに誇りとやりがいを強く感じ ています。今後も、道路施設点検業務、「勝どき 橋ミニツアー」案内役などに取組み、万一災害が 発生した際は、都職員や協会員の皆様と協働し て臨んでいきたいと思っております。

来年の「建設局長による感謝の会」も同じ意識をもって参加いたします。

五建班 若林茂樹



# 第2回施設見学会

#### 梅ヶ谷トンネルと青梅3・4・4号線

今年度第2回見学会は、令和6年2月28日(水)に実施されました。場所は、西多摩事務所建設事務所管内で整備されている、「梅ヶ谷トンネル」及び「青梅3・4・4号線道路擁壁工事」の2カ所です。

西多摩建設事務所から「梅ヶ谷トンネルが、3 月16日に開通式を迎えるので、事業に関係した OB の方々に見学していただければ?」、というあ りがたいお誘いがあり見学会の実施となりました。

見学会の実施に際しては、効率よく2カ所の現場を移動できるよう、大型バスをチャーターすることとしました。西多摩建設事務所 OB の所長さん6名を含む、38名が参加しました。

当日は、水谷所長、岩佐工事一課長はじめ西 建の皆様からの大きな支援があり、和気あいあい の有意義な見学会となりました。 開通式を控える なか、丁寧な対応に現役の皆様に心から感謝申 し上げます。

担当理事 佐野正生

## 開通に至るまでの苦労を思う

令和6年2月28日(水)、前日までの強風・荒天 が嘘のように穏やかな晴天に恵まれ、西多摩建設 事務所の2現場を視察しました。

13 時に拝島駅南口に集合した会員は、大型バスに乗ってまず1箇所目の現場である梅ヶ谷トンネルに向け出発し、睦橋通り・五日市街道を経由して武蔵五日市駅からは秋3・5・7、都道184を平井川沿いに北上し、14 時前に梅ヶ谷トンネルの日の出町側坑口に到着しました。



このトンネルは山を隔てて並行して走る2つの 都道を結ぶことで、土砂災害等による地域の孤立 を解消すること等を主目的に整備されたものです。

到感着後、山口明会長の挨拶に続き、西多摩 建設事務所水谷正史所長による局側ご挨拶、そ して岩佐昌明工事第一課長からは事業の経緯や トンネルの諸元、施工の概要などをご説明頂きま した。その後、供用開始前の延長約 1500mのトン ネル内をしばらく歩いた後、待機していたバスに 乗り込みトンネル内部を車窓から眺めながら青梅 市側坑口に到着しました。私が西建で勤務した 10年前は事業開始直後で、その時見た坑口は鬱 蒼とした山があるばかりでしたので、完成したトン ネルを見て開通に至るまでの関係の皆様のご苦 労に思いを馳せつつ、約半月後(3月16日)の開 通に先駆けて貴重な体験をさせて頂きました。

次に、そこから都道 251、吉野街道、都道 238 を経由して和田橋で多摩川を渡河して国道 411 (青梅街道)に入り、15 時前に青梅線宮ノ平駅と青梅駅のほぼ中間にある青梅 3・4・4 の建設現場に到着しました。



青梅 3・4・4 は、青梅の中心市街地を通る青梅 街道の渋滞解消等を目的として新たに整備中の 道路です。山が多く平地の少ない西多摩地域の 特性から、青梅一中・多摩高校の裏手と多摩川の 間の急峻な斜面地の区間では、上下線に高低差 のある「セパレート構造」を採用しています。さらに、 地下水が豊富な地域であるため、セパレート部等 の擁壁の構造体である鋼管は、隣の鋼管との間 に隙間を設けて地下水の流れを遮断しないように 配慮しているとの説明がありました。説明を受ける 会員からも、施工等に関する活発な質問がなされました。

最後に新井敏男協会副会長より西建の皆様への感謝のご挨拶を行い、15時半頃現地を後にしました。

本見学会にご協力頂いた西多摩建設事務所の皆様をはじめ、見学会を企画し実現に向けてご 尽力頂いた担当理事・幹事の方々に厚く御礼申 し上げ、報告に代えさせて頂きます。

北北建班 小川 和雄



# 新たな形での砂防講習会

令和 5 年度の砂防講習会は、河川部主催の「東京都総合土砂災害対策連絡会」の 1 プログラムである講演会に参加することで、土砂災害関連の知見・情報を習得することとしました。



講演者は気象予報士の國本未華さんで、講演内容は「近年の自然災害と防災について」であった。

開催日時は2月6日(火)、 15:00~16:30で、初動対応訓 練(前日に警報級の大雪予報

が出て延期)と重なり、参加者も予定していた 25 名程度から 10 名(小林一浩、斎藤俊之、藤江賢 治、佐野正生、清水幸一、島津哲也、加藤基雄、 新井敏男、西村行正、髙橋紀男 敬称略)となりま したが、会場は支庁や区市町村の防災担当者が 多く集まり、熱心に講演に耳を傾けていました。

講演内容は近年の地球温暖化の影響による気候変動が降雨量の増大や激甚化を招き、洪水や土砂災害の頻発と大規模化を招いており、将来の危機と防災情報を一般市民へ如何に分かり易く周知する方法をお天気キャスターとして模索しているというものであった。

講演時間は90分と長かったが、丁寧な資料と現 役の TBS「N スタ」お天気キャスターの立場からテ レビ放送の裏話や経験談を織り交ぜて、受講者を 飽きさせない名調子であった。

本連絡会は年 2 回開催されており、前期後期でプログラム内容は異なっているようであるがボランティア協会の砂防ボランティア併任者の知見向上に資する内容であれば、今後も参加していきたいと考えている。

最後に河川部土砂災害対策担当松葉課長を はじめ土砂担当宇田川課長代理、連絡会を裏支 えしている公園協会の担当の皆様にお礼申し上 げます。

砂防講習会担当理事 髙橋紀男

#### アンケートでも好評

今年度の砂防講習会はオリンピック記念青少年総合センター(代々木)において、河川部主催の「東京都土砂災害対策連絡会」での講演を聴講する形で実施しました。

当日は、初動対応訓練と重なり、参加者が少なかったのが残念でした。



講師の自己紹介から始まり、近年の豪雨災害の特徴と具体的な災害事例、21世紀末における気象予測、キキクル・ハザードマップ等の災害情報の取り方等のお話しがありました。そのなかで、災害発生時の報道としての面から、引き続く雨により災害が発生する可能性のある地域への気象・天気予報の繰り返しの必要性とテレビ放送枠のギャップを感じているとの話が印象的でした。

また、今回のような講習会は初の試みでしたので参加者の方からアンケートを頂きました。講演

内容については新しい知見も多く大変参考になったと言う意見が多く、会場については新宿からも比較的近いため概ね良いとの意見でした。ただ、開催時期について初動対応訓練とバッティングしたのは残念でした。来年度以降も色々と工夫しながら砂防講習会を企画して参ります。

砂防講習会担当理事 西村行正



# 順調に実施を徒歩点検

「道路の施設とバリアフリー点検」は、コロナ禍のなかでも比較的早期に再開され、昨年度、今年度と順調に実施されました。協会の会員も毎回50名を超える会員が参加されています。私たちが現役時代に培った多くの知識、経験、ノウハウを現役職員につたえることができるとともに、最近の道路行政の動向にも触れられる貴重な機会です。今後とも多くの会員が参加されることを期待します。

#### 令和 4 年度後期実績表

7.111. 「及区外入模式					
班実施日		参加協会員			
一建	1/19	2 名			
二建	12/7~1/16	5 名			
三建	1/17	1名			
四建	11/1~12/16	8名			
五建	12/12, 1/31	5 名			
六 建	1/13 • 23, 2/6	3 名			
西建	1/10~2/10	5 名			
南東建	12/14	10 名			
南西建	1/23	10 名			
北南建	11/29, 12/12 - 23	3 名			
北北建	2/13	5 名			
計	11/14~2/28	57 名			

#### 令和5年度実績表

班		実施日	数	実施日	数
<b>—</b> 3	建	7/12, 18, 20	3	1/17, 19	2
= 3	建	8/9~8/24	5	12/18~2/2	5

三建	6/23, 8/8	4	1/16, 22	2
四建	6/2~7/28	8	11/16~12/14	9
五建	8/14~9/5	5	12/20~1/31	5
六 建	7/4, 5, 6	3	1/15, 23, 2/7	3
西建	6/13~7/5	5	12/11~2/2	4
南東建	7/12	9	11/22	10
南西建	7/7	7	2/19	6
北南建	7/5, 7/10	3	12/5, 1/19, 2/8	3
北北建	7/27	4	12/6	4
計	6/2~9/5	56	11/16~2/8	53

担当理事 川合康文

#### 残雪に除雪の苦労を感じる

2月19日。小雨がふる生憎の天気でしたが、南 多摩西部建設事務所と合同で徒歩点検を実施し ました。当日は新築なった合同庁舎7階の南西建 会議室に13時に集合、南西建防災ボランティア 班(堀内、吉田、中込、高橋、金子、井上)の6名、 南西建からは赤木義弘所長、山田毅補修課長ほ か6名が参加、赤木所長の挨拶を受けた後、マイ クロバスが待つ地下駐車場に移動、参加者全員 で集合写真を撮り、13時15分出発しました。

今回、様々な理由で、いつも元気のよい矢野さん、リーダーの大八木さん、老沼さん、林さん、須藤さんの5名が欠席されたのは少々残念でした。



施設点検は、主要地方道 61 号美山街道と一般都道 521 号陣馬街道を2班に分け、さらに左車 線担当と、右車線担当に分かれて約 3.5kmの徒 歩点検を行いました。陣馬街道は歩道が比較的 広く、歩道舗装の打替えが済んで間もないことも あって問題個所を探すのに苦労するほどでした。 521号は歩道が狭く、歩道止石の205型で歩道の アップダウンが少々気になりました。全般的に南 西建の管理が行き届いていると感じました。

今回も点検結果を電子化するため点検記録と 写真撮影を GPS と連動させると話している職員の 皆さんの会話が、我々OB には理解できません。 OB となって 10 年以上、時代に乗り遅れているこ とを実感させられました。

点検途中、沿道法面の竹が2月6日の雪で多数折れ曲がり歩道上に垂れ下がっており、交差する山入川の河川敷には、まだ残雪があるのには驚きました。雪の日は、南西建の職員の方も除雪等でずいぶん苦労されたのだろうと思います。ご苦労さまでした。担当した2路線では点検中、歩行者を殆ど見かけませんでしたが、歩行者の多い少ないにかかわらず、管理者として問題となるような個所は残せないは当然なことだと思います。

点検の終盤になると雨もあがり薄日がさしきて、 15時頃に無事終了となり帰路につき、15 時 45 分 に南西建に戻りました。歩数計は 9000 歩近くに、 日頃の運動不足には良い運動となりました。

南西建班 井上幸夫



## 西建班から点検の写真が届きました



点検中の根津さん

## 「いい夫婦の日」の徒歩点検

1月22日、南東建班は令和5年度第2回道路 徒歩点検を実施しました。当日はいい夫婦の日 に相応しい晴天下で、町田街道(町田市を北西 から南に縦断する主要道路で江戸後期から明治 期には多摩、甲州、上州を結ぶ絹の道の一部で あった)の忠生公園入口交差点から、小田急町田 駅第一踏切交差点までの約4km区間でした。

朝8時50分に事務所に全員集合した後、園尾 所長、大久保副所長、小池補修課長、島野南多 摩尾根幹線工事担当課長等のご列席頂き、所長 から「日頃からボランティア活動に感謝すると共に、 安全に十分注意し実施していただきたい。終了後 の懇親会での飲みすぎにはご注意されたい」との ご挨拶をいただきました。中曽根統括課長代理か ら本日の点検コース等の説明を受けた後、事務 所バスにて本日点検現場の起点部に向かいまし た。



9時15分頃、現場に到着し、R 班(敬称略以下同。ボランティア:武内、織田、原田、佐々木、若尾。所側:中曽根統括課長代理、井上主事の計7名)と L 班(ボランティア:杉本、矢内、大坪、岡村、柴田。所側:小池課長、大西主任の計7名)に分かれて、町田街道の北西部から南側の市内中心部に向かって点検しました。

出発地の忠生公園入口交差点では、丹沢山系の大山の勇姿を眺め気合を入れてスタートしました。日頃からの南東建補修課関係者のご尽力により、道路路面や歩道部も非常に綺麗に管理されている状態であると思いながら活動を進めました。しかし、より安全で快適な道路である方がよいで

あろうとの視点から、歩道の凹凸箇所、無用の長物(歩道内の街灯の支柱と思われる残置物)、植栽帯の補植箇所、のぼり旗用のタイヤ放置箇所等について指摘させていただきました。

また、木曽交差点から2km位の区間については、すいすいプランにより体系的交差点改良や地中化工事も終了しスッキリとした道路景観を満喫、渋滞も全くなく円滑な道路状況を見ることができました。

点検班メンバーにはかつて南東建に勤務経験者もおり、滝ノ沢交差点においては交差点改良事業により歩道橋の撤去を検討したが、関係者の反対にあい残置した等、当時の苦労話を想い出す方もおりました。また、森野交差点から以南(本日の終点部)の区間については、昨年度の路面補修工事で、夜間の舗装工事の際に道路に座り込んで反対する方を説得しながら、無事舗装工事を終了したことにより、所長賞をいただいたという苦労話を課長さんから伺いました。いつも変わらず工事関係者のご苦労のうえに、大切な道路等の基盤施設が保全されていることを改めて痛感いたしました。

その後 L 班は11時頃に無事終点部に到着し一足先に事務所に戻りました。一方、R 班は途中で少し時間を要する箇所もあり11時15分頃、無時帰所となりました。全員の帰所後、所の玄関前で全員集合の記念撮影を行い、小池課長、中曽根統括課長代理等の関係者に御礼を述べた後、帰路につきました。

途中、有志によりいつもの場所において昼食懇親会を行い、この1年間の会員の活動への感謝を込めて柴田リーダーの乾杯に始まり、相互交流の後、来年への英気と変わらぬご協力をお願いして、若尾副リーダーの掛け声により締めを行いました。末筆で恐縮ですが、この1年間、園尾所長様はじめ、南東建補修課等の関係職員の皆様には衷心より感謝申し上げます。併せて、本日、ご参加いただいた会員の皆様、大変お疲れ様でした。来年もよろしくお願いいたします。

南東建班 柴田賢次

## 協会からのお知らせ

- ① 各班の活動報告をお待ちしています。下記編集担当理事又は林まで連絡願います。 林アドレス(hayashi471@mbr.nifty.com)
- ② 協会のH.P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板 <a href="http://tokyo-adv2.info/">http://tokyo-adv2.info/</a>)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っていますので、積極的にご活用ください。なお、建設局報の閲覧には、パスワード「kyokuhou」の入力が必要です。
- ③ 来年度の総会は5月15日(水)に予定しています。別途ご案内を差し上げますが、予定表等に記入していただければ幸いです。

#### \*\*\*編集後記\*\*\*

前号は写真を大幅に増やして12頁としましたが、今号は予想外にイベントが多かったうえに、お願いした原稿もボリュームのあるものが多く、12頁に増やしても掲載しきれなくなってしまいました。今号に掲載できなかった事務所班の執筆者の方にはお詫び申し上げます。次号に掲載いたします。

来年度は今年度以上に活動も活発になると思います。 編集担当が悲鳴を上げるほどの原稿をお待ちしております。 (MH)

発行人 山口 明

発 行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1 新宿第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編 集 加藤基雄、佐野正生、高橋紀男、西村行正 林 幹生

